

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	身近な公共施設の美化推進事業			事業番号	26-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	みどり公園課	陶山 晃	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	8	自然と調和した住みよいまちづくり	
		施策展開の方向	1	愛着のある美しいまちをつくる	
		施策	26	生活環境美化の推進	
予算事業名	地域公園維持管理費		水と緑のネットワーク整備事業費		
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前		終了年度	—
関連法令等	伊勢原市公園愛護会活動推進事業実施要領				
国・県の計画等	-			計画期間	-
関連個別計画	-			計画期間	-
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	公園・緑地は、地域住民に安らぎや憩いを与えるとともに、災害避難場所やコミュニティ活動の場として、多くの役割を担っている。そのため、公園愛護会などによる市民協働型の継続的かつ積極的な美化活動や、それに関する情報の対外的な発信活動が、より一層重要度を増している。また、老朽化が目立つリバーサイドコースを、市民が安心・安全に利用できるよう、草刈作業、維持管理等を実施する必要がある。				
目的 (何をどうしたいのか)	公園・緑地、渋田川及び歌川リバーサイドコースの維持管理において、市民の豊かな想像力や行動力を生かして市民参加による美化活動を推進することを目的とする。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園愛護会の新規設立を促進するため、支援体制を整備していきます。</li> <li>リバーサイドコースを地元自治会と協力して、市民が安心して利用できるよう適切に維持管理します。</li> </ul>				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	愛護会活動支援	継続実施		継続実施	
	新規愛護会設立の促進	1団体設立		1団体設立	
	渋田川・歌川リバーサイドコース草刈	継続実施		継続実施	
既設コース修繕	既設コース修繕 舗装打換		既設コース修繕 舗装打換		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	公園愛護会の延べ活動日数	693日	717日	729日	



事業実施 (Do)へ

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	公園愛護会については、今年度と同様に1団体以上の新規設立をめざし、市民協働による公園美化推進活動のさらなる充実を図っていききたい。 リバーサイドについても、引き続き、地元自治会による草刈り業務の委託、利用者の安全を第一に考えたコースの整備を行っていく。		
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b> 5自治会
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b> 報償費
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>	
		<b>28年度</b>	<b>29年度</b>
	愛護会活動支援	継続実施	
	新規愛護会設立の促進	29団体設立	
	渋田川・歌川リバーサイドコース草刈	継続実施	
既設コース修繕	コース一部分への 転落防止柵設置		
<b>実施した取組の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛護会活動に必要な消耗品支給及び報償費の支給</li> <li>・リバーサイドコースの草刈作業(年2回)</li> <li>・歌川リバーサイドコースの一部分への転落防止柵の設置(大田橋付近)</li> </ul>		
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状】</b>	<b>年度</b>
			<b>28年度</b>
	公園愛護会の延べ活動日数	693日	787日
			<b>29年度</b>

年度		28年度 実績				29年度 実績			
<b>事業費合計 (a)</b>		1,636	千円				千円		
<b>内訳</b>	国県支出金 ①	0	千円				千円		
	地方債 ②	0	千円				千円		
	その他特財 ③	0	千円				千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	1,636	千円				0	千円	
<b>国県支出金の内容</b>									
<b>コスト</b>	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他							
<b>人件費</b>	正規職員	0.3	人	2,595	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.3	人	2,595	千円		人		千円
<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		4,231	千円						千円
<b>単位当たりコスト</b>	対象数	定義	公園緑地等市民参加を行った団体数(公園愛護会50団体、リバーサイド5団体)		単位	単位			
		対象数	55		団体				
		総事業費 /対象数	76,927	円					

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	各公園愛護会の活動を継続的に支援するとともに、今年度より報奨金を支払うことで、新規団体を29団体設立し、当初計画を大幅に上回ることが出来た。また、渋田川・歌川リバーサイドコースの草刈の継続実施と、利用者の安全を考えたコース整備により、適切に維持管理することができた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input checked="" type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	C	他都市の事業内容等	本市の公園愛護会団体数及び活動人数は大幅に増加したが、他市と比べて依然と少ない状況である。引き続き、公園愛護会の制度の周知を図り、団体数を増やしていく必要があると考える。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	公園愛護会の団体数の増加、渋田川・歌川リバーサイドコース草刈及び美化活動の推進により、市民が利用しやすい公園等の維持管理を実施することができた。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	公園・緑地及びリバーサイドコースの維持管理について、公園愛護会や自治会へ協力を依頼することで、民間事業者への委託よりも低コストで運営することができるため、公園維持管理費の縮減にも寄与している。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	今年度については、公園愛護会に報償費を支払うことや、広報活動の充実により、大幅に公園愛護会を増やすことができた。今後は、愛護会の数を増やすことはもとより、各団体の質を向上させることも必要であるとする。
次年度の取組方針		公園愛護会については、引き続き15団体以上の新規設立をめざし、市民協働による公園美化推進活動のさらなる充実を図っていききたい。リバーサイドについても、引き続き、地元自治会への草刈り業務の委託や利用者の安全を第一に考えたコースの整備を行っていく。		
所管部長による総評		市民の身近な公園に対する愛着・愛護意識の高揚を図り、市民参加による公園美化活動のさらなる普及と活性化を図るとともに、その継続性を確保することは、これから、ますますその重要性を増すと考えられることから、本事業を積極的に推進すべきである。		